

総括評価表

(学校名：富岡東高等学校羽ノ浦校) (No.2)

		自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価	学校関係者の意見	
II 臨地実習での支援体制の充実を図り、看護師国家試験合格をめざす。	<p>《全校レベル》</p> <p>II 力量に応じた個別指導を行うことで、臨地実習に必要な知識や技術を確実に習得させる。</p> <p>《下位組織レベル》</p> <p>①看護科・専攻科教員と臨地実習指導者との連携を深め、効果的な臨地実習を実施する。[看護科・専攻科教員・各施設担当者]</p> <p>②実習時における個別・グループ別指導それぞれの特徴を生かし、思考判断力を伸張する。[看護科・専攻科教員]</p> <p>別指導により、試験の得点率を向上させる。 [看護科・専攻科教員・進路指導課]</p>	<p>評価指標</p> <p>①看護科・専攻科教員と臨地実習指導者との情報交換を1日1回行い、生徒学生の課題を早期に把握する。その日のうちに、それぞれの課題に対する適切なアドバイスや資料等の提供を行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>看護科：臨地指導者と1日1回以上、評価表の項目等について情報交換を行い、実習中の生徒の状況を把握した。</p> <p>専攻科：臨地指導者と1日1回以上、情報交換を行い、各病棟毎の学生の課題を把握し、アドバイスをを行った。</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>新型コロナウイルス感染症が5類に移行後2年目となり、ほぼ予定通りの実習が実施できた。しかし、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症は継続しており、対策を十分にとりながら実習に取り組んだ。生徒・学生は臨地実習に真摯に取り組むことができてい</p> <p>る。実習中の学びを授業、演習や国家試験の勉強に取り入れ、学習意欲の向上を図ることもできた。</p>	<p>○国家試験の合格率100%を継続できているが、大変な苦勞の末、この実績をあげていることは、賞賛に値する。</p> <p>○実習は病院等の体制(人材)の影響が大きく、現場の教育体制を整えるためには、教員の役割が非常に大きい。病院等の実習施設と連携し、理想的な実習現場となるように、継続的な協力体制を築くことが大切である。</p> <p>○実習の振り返りにおいて、特に失敗した後のフォローが大切である。人間的な教育の観点で、引き続き人材育成を行って欲しい。</p>	<p>○病院・施設における新型コロナ・インフルエンザ等の感染症対策の状況が社会全体と比較して厳しい中、ほぼ予定通りに臨地実習が実施できたことはよかった。今後は、実習の制限も緩和されて来ていることから、効果的な実習となるよう病院側とも協議を行ってきたい。</p> <p>○来年度の専攻科1年生より、新カリキュラムでの学習内容となるため、日々の授業や実習を大切にしながら、さらなる知識の定着に向けた指導法に繋げたい。</p>
		<p>②臨地実習中に1日1回以上、実習終了後に1回、生徒学生全員に実習場面の振り返りを行わせることで、思考判断力を育成する。</p>	<p>看護科：1日の学びや反省を発表や、記録に書かせて振り返りを行った。</p> <p>専攻科：実習終了時に各領域ごとに学びやこれからの課題等について振り返りを行った。</p>			
		<p>③専攻科2年において、各模擬試験の得点率が必修問題8割、一般・状況設定問題7割以上を目標とし、国試直前の模擬試験においては受験者の90パーセント以上がこの目標を達成できる。</p>	<p>専攻科：各模擬試験の得点率目標を、必修問題8割以上、一般・状況設定問題7割以上に設定し、国試直前の模擬試験においては受験者の81.3パーセントがこの目標を達成できた。</p>			
		<p>④専攻科において、模擬試験毎に試験結果を用いて個別指導を行う。</p> <p>活動計画</p> <p>①看護科・専攻科教員と臨地実習指導者の連携を密にし、生徒学生の課題を早期に把握する。次に、それぞれの課題に対する適切なアドバイスや資料等の提供を行い、生徒学生への支援を行う。</p>	<p>専攻科：模擬試験毎に各人の学習不足範囲を洗い出し、再試験等の個別指導を行った。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>看護科：臨地実習の状況を臨地指導者や担当スタッフから確認し、必要に応じて班や個人での指導を行った。</p> <p>専攻科：各領域での、受け持ち実習等を通して個別性のある看護が計画・実践ができるよう、それぞれの課題を考えさせた。</p>			
	<p>②臨地実習中は随時振り返りをさせ、個別指導を行うことで思考判断力を育成する。又、常に専門書を活用し、自ら学ぶ姿勢を確立させる。</p>	<p>看護科：日々の振り返りや看護記録を記入する中で、参考書等を参考にしながら、情報収集や根拠の導き方等を指導した。</p> <p>専攻科：常に専門書で調べながら、科学的根拠に基づく看護を行うよう指導した。</p>				
	<p>③各模擬試験結果をフィードバックし、専攻科補習や国試演習において習熟度別等のグループ演習を行い、個に応じた指導を行うことで得点率を向上させる。</p>	<p>専攻科：補習や国試演習では、内容に応じてグループ演習と個人演習を使い分け、個別の対策を行った。</p>				